

# じわじわ高まる「ラップ」への注目度

みなさんは「ラップ」とよばれる運用サービスや投資信託について耳にされたことがありますか？ラップは元々「くるむ、包む」という意味を持ちますが、金融商品における「ラップ」には大別して3種類あります。この数年で資産運用の世界ではラップ関連商品に注目が集まり、残高が増加傾向にあります。

## 大別すると3種類となるラップ関連の金融商品

SMA (ラップ口座)	ファンドラップ (ラップ口座)	ラップ型ファンド
最低投資金額：数千万円～	最低投資金額：300～500万円	最低投資金額：1万円～
 <p>投資信託だけでなく株や債券も投資可能</p>	 <p>金融機関が用意した専用投信のみ投資可能</p>	 <p>運用のプロが多様な投信を組み入れている投資信託を購入</p>
<p>投資一任契約</p> <p>完全カスタマイズのポートフォリオを提案</p>	<p>投資一任契約</p> <p>リスクの異なる複数のポートフォリオの中から提案</p>	<p>投信購入</p> <p>顧客のタイプ別（安定or積極志向等）に複数のコースを用意</p>
<p>金融機関</p>	<p>金融機関</p>	<p>金融機関</p>

## ラップ商品人気の背景

「ラップ」とは一般的に長期投資を前提とした、ポートフォリオ（複数資産への投資）型のおまかせ運用を意味します。

過去、REITだ、株だと様々な金融商品が注目されましたが、最近は増税やインフレ率上昇による「お金の価値の目減り」や「公的年金支給額の減少」等を不安視し、預貯金や退職金といったまとまったお金をプロにお任せしたいというニーズが高まっています。その結果としてラップ商品の残高は年々増加傾向にあるようです。

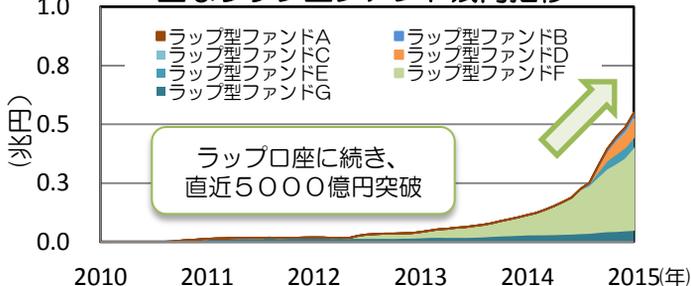
### 一言メモ

「資産運用」というと富裕層が行うイメージがありましたが、最近のアンケートによると50歳代以上の60%以上の人は「老後の生活資金」のために金融資産を保有するそうです。

## ラップ口座残高推移



## 主なラップ型ファンド残高推移



出所：（上図）一般社団法人日本投資顧問業協会（期間：2006年3月～2014年12月）注：ラップ口座は顧客が投資顧問業務に係る報酬と売買執行手数料及び口座管理料等の手数料を運用資産残高に応じて一括して支払う口座をいう。（下図）リッパータータを元にGSAMにて作成（期間：2010年3月～2015年3月）（一言メモ）金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査」／平成25年

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨（有価証券の取得の勧誘）を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、あくまで例示をもって理解を深めていただくためのものであり、当該個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等を推奨あるいは勧誘するものでもありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(1)複製、写真複写、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(2)再配布することを禁じます。

<審査番号：5382-TMPL-04/2015-23703> © 2015 Goldman Sachs. All rights reserved.